

都市環境デザイン会議 in 新潟 2015

日時：2015年10月31日（土）

会場：クロスパル新潟 405 講座室(新潟県新潟市)

参加者：上山寛、小見直樹、荘司洋文、武山良三、柳原恭順、木谷弘司、小間井孝吉、島由治、高山純一、徳本修一、新田川貴之、福塚正浩、水野一郎、山岸敬広、埴正浩、川上洋司、玉森慶三、中澤俊（会員 18 名）
一般 15 名 計 33 名

プログラム：

◎発表「まちなかと新たな公共交通の展開」

大勝 孝雄氏（新潟市都市政策部長）

川上 洋司氏（福井大学大学院教授）

木谷 弘司氏（金沢市都市整備局担当部長）

◎座談会「地方のまちなかで公共交通が果たす役割と課題」

コーディネーター

高山 純一氏（金沢大学教授）

フォーラム「まちなかと公共交通」は、JUDI 北陸メンバー18名に加え、一般参加者の15名、計33名にご参加いただきました。

まず、都市環境デザイン会議理事の玉森慶三氏の挨拶、司会・進行は小見直樹氏が務めました。



司会・進行の小見直樹氏



JUDI 理事の玉森慶三氏



フォーラム会場の様子

発表(概要)

◆発表1「新潟市における新バスシステム」

大勝 孝雄氏（新潟市都市政策部長）

新バスシステムというのは、まず都心部での移動円滑化を図る。その第1期が新潟駅から青山につながる BRT 路線。そこに都心のアクセスの強化を進めて、生活交通の充実を図るということで、基本的には新潟交通のバス路線で公共交通を支えて、足りない部分を区バスで補完。さらにきめ細かなサービスの部分は住民たちでという三重の構想で新潟市の公共交通を考えていこうという考え方である。

これまでの新潟のバス停の特徴は、路線ごとにバス停があり、一番多いときで古町に23カ所。今回は15カ所を BRT 路線に集約して9カ所まで減。路線も22路線を6路線に集約。



大勝孝雄氏のご発表

たくさん走っているところのバス路線に連節バスを含めた基幹バスを入れて効率化を図った。最高時の2000本を1300本とし、700本の余力を郊外線増便、新路線6線増やしたという状況である。

今回目指しているのは、サービスを向上させ、サービスの低下に歯止めを掛けることで、さらに利用者の希望に沿ったサービスを提供できる好循環をつくり出す。

まちなかの移動の中で、乗り換えというところで多くの苦情が寄せられ、接続の問題でお年寄りから見ると「不便になった」という意見が出ているところを重点的に改善する。結果として、利用者数は微増で、人の流れが変わり、商店街によっては売り上げもバランスが変わってきている。これを定着させ、最終的に市民に愛されるシステムにしていきたい。



大勝孝雄氏

◆発表2「福井市なりのLRT化への途」

川上 洋司氏（福井大学大学院教授（JUDI 会員））

福井は、中心市街地が105ha程度しかないが、鉄軌道には、路面電車とえちぜん鉄道があり、大野の方はJR越美北線、勝山の方はえちぜん鉄道で結ばれているのが特徴の一つ。

日本の中でもトランジットモールの適地という条件を一番クリアしているのは福井ではないかということで、TM（トランジットモール）化の提案が出たが、平成元年、商店街から支線部分の300m部分を撤去してくれと廃線陳情が出た。そのあとで、福井市は路面電車検討懇話会をつくり本格的に検討をスタート。その頃は、軌道系も含めた公共交通のシステムに対してはアゲインスト、特に公共、行政というのは、ほとんどこのことには耳を貸さなかったが、福井市の行政はある程度理解を示した。逆に、商店街が全く冷淡で、そのまま来たという感じ。

マスタープランも平成12年のときから「歩く」ということを視点とし、平成22年の改訂では「歩けるまち」から「歩きたくなるまちへ」ということで継承をした。併せて、「中心市街地と地域拠点」が公共ネットワークにより有機的に結ばれた都市」ということで、コンパクト・プラス・ネットワークを最初から盛り込んだ。交通戦略でも軸線のところにきっちりとフィーダー系、生活支援型のサービスを密に入れていくということで、現在動いていることに間違いはない。

福井の経験でいうと、LRTプロジェクトとやってしまうものすごく反対が多い。どれだけ掛かるのだという部分だけ突いてくる。しかし、一つずつ良くしていこう、良くしていこうということを重ね、最終的にできたときには福井流のLRTかなと思う。

LRT化というのは、まちの再生から始まり、道路空間利用の再配分も絡み、これから都市の再生、中心市街地の活性化と非常にリンクする。行政もそのようになりつつあるので、今が本当に大きなチャンス。これを一つ追い風として、どこまでまちづくりと連携しながらよりブラッシュアップするかということにあるのが福井だと思う。



川上洋司氏のご発表



川上洋司氏

◆発表3「新幹線開業を受けたまちなかの公共交通」

木谷 弘司 氏
（金沢市都市計画整備局担当部長（JUDI 会員））

新幹線開業に向けて、駅と兼六園を結ぶシャトル便や駅と中心商店街を結ぶまちバスというシャトル便。もともと片方向回りであった周遊バスは、大型バスを使って逆回りのルートを入れるといったまちなかに特化したような作戦も取ってきた。

金沢市のバスの乗降客数の一番ピークは、昭和42年。ここで市電を廃止しバスに転換したことで、大体6000万人ぐらい運んでいたものが、今、大体4割の二千何百万人という数字になっている。その過程では、バスレーンなどいろいろなことをやっているが、負のスパイラルというか、不便になる、乗らなくなるといったことが金沢市でも起こってきた。

第1期の新交通戦略では、交通ネットワークの再構築、交通機能の連携強化、交通利用環境の向上、歩行者と公共交通の優先、広域・圏域交通による交流の推進という5つの基本方針を掲げている。将来的には、港から駅、武蔵、香林坊、片町といった旧市街地の商店街につなぐ都心軸を大きな軸線として、いろいろな支線を入れていく。こういった体系を何とか作り上げていこうではないかとしている。

公共交通にてこ入れをするには、平均点以上のものに対してお金を投入して、今よりも本当に便数などが便利になったということを見せ、感じさせ、初めて公共交通の利用促進ということに道が開かれる。

今回、第2期の見直しの中では、公共交通重要路線と主要路線、生活路線の3段階に分けて設定する。公共交通重要路線のイメージは、あまり時刻表を気にしなくてもバスが来る。そこに対して大きなフィーダーになってくる主要路線、さらに生活路線といった段階別の位置付けで、目指すべき便数など利便性の水準を入れ込むこととしている。

これからは、いかに利用者にも乗るという責任を持ってもらうか。特に地域のフィーダー系、コミュニティ系には、いかに乗る側の責任とすることを分担して仕組みをつくっていくかということが大事。



木谷弘司氏のご発表



木谷弘司氏

■ 座談会

●パネリスト

大勝 孝雄氏・川上 洋司氏・木谷 弘司氏

●コーディネーター

高山 純一氏（金沢大学教授（JUDI 会員））



座談会の様子

座談会は、「地方のまちなかで公共交通が果たす役割と課題」と題し、ご発表いただいた 3 名をパネリストに、コーディネーターは高山純一先生が務められました。

<座談会での主な意見>

（大勝） 連節バスを入れて、BRT 路線を入れたという目的は、ハードの面で道路空間の再構築と健康問題。新潟市の方々に健康になってもらい、車に頼らないライフスタイル、まちなかならではの魅力と公共交通をどうつなげるのかというのがテーマ。

本来であれば環境、まちの活性化、にぎわいづくりなど、それを新潟市がどう描きたいのか、そのためにどういう方策が考えられるのか、そういうアプローチが大切。公共交通を支えるためには、いろいろな方々が公共交通を維持することを身近に感じて、自分たちが支えていかなければならないので率先して利用しようというための仕掛けが大切。古町が結節点とするのであれば、市民にとって分かりやすく、メリットのある仕掛け、ただ単にまちで買い物するだけではなくて、まちなかならではの魅力というものの発信とセットに考えられることが必要。



左からパネリストの大勝氏、川上先生、木谷氏

（川上） LRT 化というのは、手段であって目的なので、まちをもう少し良くしようということと結び付けられないといけない。いろいろな既得権が一番難

しいが、その既得権の発想を変えて、共生し、もっと相互に良くなるということを提案したり、議論したり、説明したり、実験したりということを繰り返していかないと変わらない。

地域拠点と都心と地域拠点に、どういう公共側が生活サービスを意図するか。新しい交通拠点をつくって、そこに都市機能を集約させる余地はあまりないので、どういう市場を働かせて、拠点のところに再編成していくか。

福井なりのということで、トータルで LRT システムを最初からデザインするという形ではない。そうすると、そのプロセスでやっていなかったことが、将来展開を少し狭めてきており、それをどのように持っていくかが課題。

（木谷） 公共交通に対して予算配分をしていく。それを的確にするとき、分かりやすい即時性がつなげたものに関してはやりやすいが、いかにタイムラグを置いたものと結び付けるか。一般の市民の人たちが将来に対して抱いている不安に対してピタッと来る、そういったものを看板に掲げられるかということが大事。

土地利用と交通というものをいかに関係付けて、交通の話は、交通だけではないということを明確化するということが一つ。フィーダーをどれだけ入れも、かなり歩いて、バスに乗っても立っていられるぐらいの元気さがある方でないとな公共交通が使えない現実があるときに、その間を埋めるのはドア・ツー・ドア。目的地まで全部タクシーを使うとすごく高いが、結節点に近いところまで低額でタクシーをうまく使うか。タクシーを、本当の意味で公共交通という位置付けに組み込んでいけるかが一つの鍵なのかもしれない。

（高山先生まとめ）これから 10 年後、20 年後、30 年後と考えたときに、それぞれのステージで公共交通の在り方は変わってくる。例えば 20 年後に法律がどれだけ変わるかわからないが、自動運転が実用化できる段階に来ていると思う。

そうなったときに、今の公共交通がまたその中でどうあるべきかというのも少しずつ変わってくる。ただし、公共交通の空白地域では、自動運転が実用化する段階の前に、どこかでギャップが出るので、そこをどう埋めていくかというのが一番の課題ではないか。



コーディネーターの高山先生

■連節バス試乗～まち歩き

J R新潟駅万代口連接バス乗り場前に集合し、新潟駅前から新潟市役所前まで、9月5日からスタートした連節バスに試乗しました。

市役所前のバス停では、B R T (Bus Rapid Transit) の導入やバス停の集約整備について、大勝氏にご説明いただきました。上古町商店街から古町、フォーラム会場のクロスパル新潟までは、まちの成り立ちやお堀の遺構等も含め、新潟市の加藤氏と中山氏にご案内いただきました。



連節バス試乗～まち歩きの様子

■懇親会

会場：みやこわすれ古町店

参加者：会員 17名、一般 7名

恒例の懇親会は、JUDI 北陸メンバー17名と一般参加者7名にご参加いただき、町家を改築した「みやこわすれ古町店」で、新潟の地酒と料理を堪能し、大いに盛り上がりました。

ささやかながら、10月31日がお誕生日だった高山先生のお祝いもしました。

●北陸ブロックの今後の活動予定

◇都市環境デザイン会議in福井

日時：2016年6月上旬 会場：福井県内



水野先生の乾杯、上山さんの締め、お誕生日の高山先生

■現地見学会

日時：11月1日(日) 9:30~11:00

場所：新潟県新潟市

参加者：上山寛、小見直樹、柳原恭順、木谷弘司、島由治、徳本修一、新田川貴之、福塚正浩、水野一郎、埴正浩、中澤俊(会員11名) 一般2名 計13名

2日目は、「越乃寒梅の酒蔵」石本酒造株式会社を見学しました。『米どころ新潟における淡麗辛口の地酒文化』について石本龍則社長よりご説明いただき、まさに仕込みが始まる寸前の酒蔵を越後杜氏の竹内伸一氏にご案内いただきました。そのあとは、越乃寒梅の名をこの世に広めた「白ラベル」から、原料の一部に乙焼酎を加えている限定酒「特醸酒」など、数々の試飲をさせていただきました。



◇都市環境デザイン会議 全国大会 in 金沢

日時：2016年10月14日(金)~16日(日)
会場：石川県金沢市など

—編集後記—

今回の JUDI in 新潟開催では、新潟県の上山さん、小見さん、荘司さんに大変ご尽力いただきました。誠にありがとうございました。また、ご参加いただいた皆様も、お疲れ様でした。大盛会となりましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今回は、まちなかとなら新たな公共交通の展開についてご発表いただいたあと、さまざまな地方のまちなかでの公共交通の果たす役割と課題について議論していただきました。

さて、次回は、6月上旬に福井県内において、ブロック総会との同時開催となります。また、10月には、金沢市を中心とした北陸を舞台として、都市環境デザイン会議の全国大会が開催されることも決定しました。詳細が決まり次第ご案内いたしますので、奮ってご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹事 ● 島津勝弘 (島津環境グラフィックス)

事務局 ● 埴正浩・高永智恵 (株式会社日本海コンサルタント)

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ

<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ

<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>